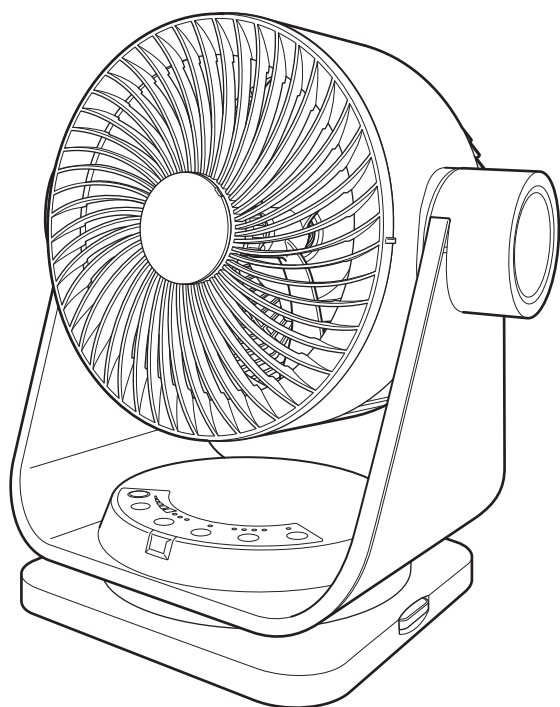


DCサーキュレーター FCR-191D

取扱説明書・保証書

このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。正しくご使用いただくために必ずこの取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになられたあともいつでも見られるように大切に保存してください。



も く じ

安全上のご注意	P1~P2
各部の名称とはたらき	P3
使用前の準備	P4~P5
正しい使いかた	P6~P10
お手入れと保存	P11~P12
修理・サービスを依頼する前に	P13
長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示について	P14
アフターサービスについて	裏表紙
保証書	裏表紙



仕 様

電 源	DC24V 専用ACアダプター (付属)
消費電力	約18W (専用ACアダプター使用時)
電源コード長さ	約1.8m
外形寸法	約 幅 35 × 奥行 24.5 × 高さ 37cm
質 量	約2.8kg (本体のみ、ACアダプター・リモコン含まず)



- 仕様等は改善・改良のため、予告なく変更することがあります。
- この製品を使用できるのは日本国内のみで、海外では使用できません。
(This unit can not be used in foreign countries as designed for Japan only.)

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保存してください。

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペット等にかかわる拡大損害を示します。)





図記号の意味と例

	⊘は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。)
	●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示します。)

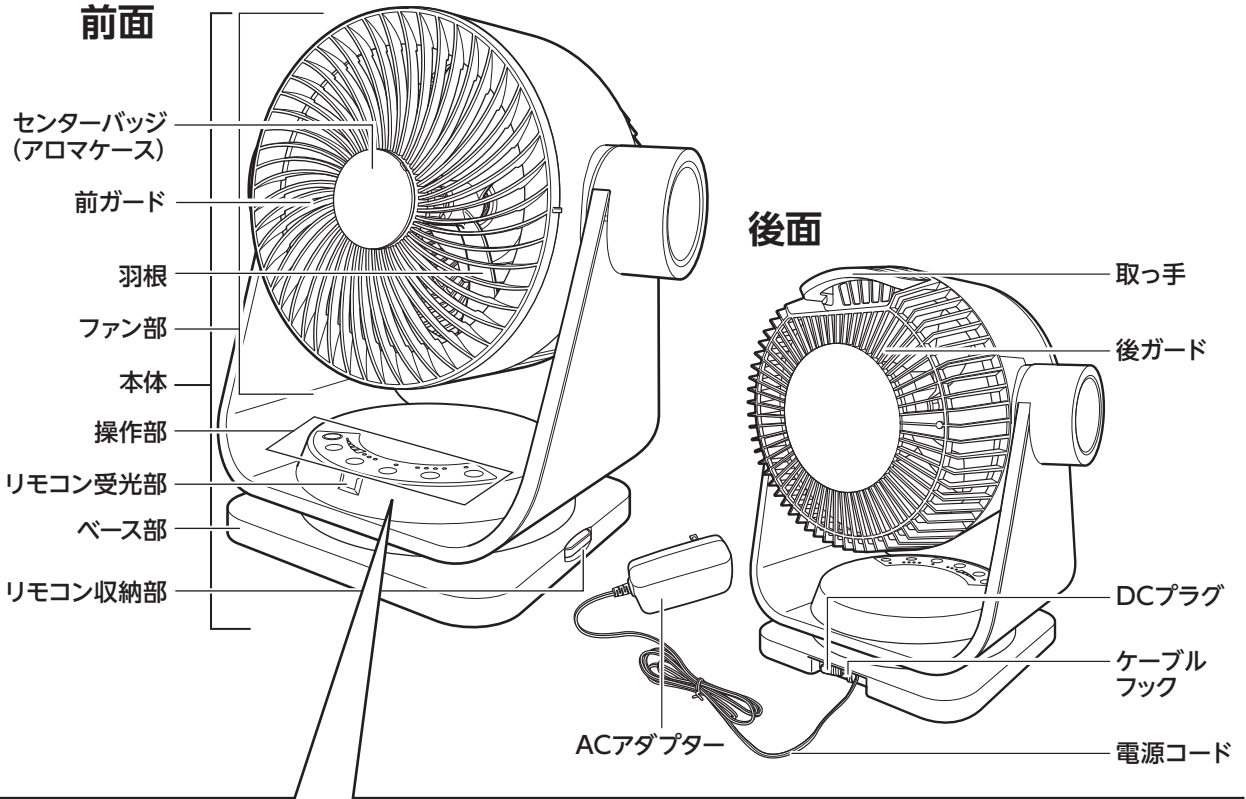
警告

 禁止	交流100V以外では使用しない。 火災・感電の原因になります。	 禁止	本体のすき間にピンや針金などの金属物等、異物を入れない。 感電・けがの原因になります。	 プラグを抜く	使用しないときは、必ずACアダプターをコンセントから抜く。 絶縁劣化による感電・漏電・火災の原因になります。
	製品のお手入れの際は、ACアダプターをコンセントに差し込まない。 感電・けが・火災の原因になります。	 指示	異常時(こげ臭い、発煙など)はACアダプターを抜き、使用を停止する。 火災・感電の原因になります。	ACアダプターをコンセントから抜く。	お手入れの際は、安全のためACアダプターをコンセントから抜く。 感電・火災・けがの原因になります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、重いものを乗せたり、挟み込んだりしない。 火災・感電の原因になります。		ACアダプターはコンセントの奥までしっかり差し込む。 感電・ショート・発火の原因になります。	 分解禁止	分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。 火災・感電・けがの原因になります。修理は販売店またはドウシシャお客様相談室(裏表紙参照)にご相談ください。
	前ガードを取り付けずに運転をしない。 けが・故障の原因になります。		ACアダプターの刃および刃の取り付け面にホコリが付着している場合はふきとる。 ホコリが付着したままACアダプターを差し込むと、ショート・火災の原因になります。	 ぬれ手禁止	ぬれた手で、ACアダプターを抜き差ししない。 感電の原因になります。
	電源コードやACアダプターが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 感電・ショート・発火の原因になります。		お手入れ後や組み立ての際、ガードをしっかりと固定する。 取り付けが不十分だったり、正しく組み立てられていないと、けが・故障の原因になります。	 水ぬれ禁止	水につけたり、水をかけたりしてぬらさない。 ショート・感電の原因になります。
	子供だけで使わせたり、幼児の手が届くところでは使わない。 けが・感電の原因になります。		リモコン用の電池からもれた液が目に入ったときはこすらずに水で洗い流し、医師の診察を受ける。 失明や目に障害を負う恐れがあります。		

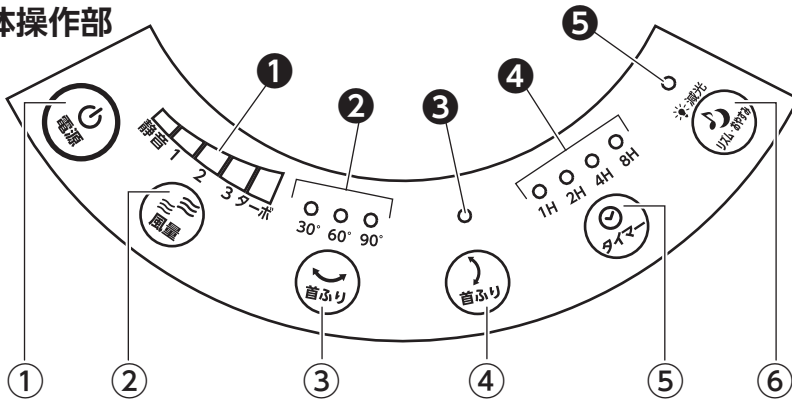
⚠ 注意

 指示	<p>ACアダプターを抜くときは電源コードを持たずに必ずACアダプターをもって引き抜く。 感電・ショート・電源コードの断線の原因になります。</p>	 禁止	<p>ベース部を引きずらない。 床が傷つく原因になることがあります。</p>	 禁止	<p>お手入れの際は住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉などを使わない。 変色・変形・感電・故障の原因になります。</p>
	<p>リモコンの電池は⊕⊖を正しく入れる。 間違えて入れると、故障するだけでなく、液もれや破裂の原因になります。</p>		<p>前ガードの中やモーター部に指などを入れない。 けがの原因になります。</p>		<p>首ふり動作中のサーキュレーターを無理に正面に向けない。 破損・故障・異音などの原因になることがあります。</p>
	<p>長時間使用しないときはリモコンの電池を抜く。 長時間入れたままにしておくと、液漏れによって内部を汚したり、破裂による火災やけがの原因になります。</p>		<p>不安定な場所で使わない。 けが・故障の原因になります。</p>		<p>リモコンの電池は指定以外の電池を使用しない。 液もれなどの原因になります。</p>
	<p>リモコンを廃棄するときは、電池を抜く。 そのまま廃棄すると、思わぬ事故の原因となります。電池は各地方自治体の指示に従って処分してください。</p>		<p>髪をガードに近づけすぎない。 髪が巻き込まれ、けがをする原因になります。</p>		<p>リモコンの電池は直射日光が当たる場所など高温になる場所に置かない。 液もれや破裂・火災などの原因となります。</p>
 禁止	<p>風をからだに、長い時間続けてあてない。 健康を害することがあります。</p>		<p>次のようなところでは使わない。 ●レンジなど炎の近く ●引火性のガスがあるところ ●雨や水しづきがかかるところ 変色・変形・炎の立ち消え・火災・感電の原因になることがあります。</p>		

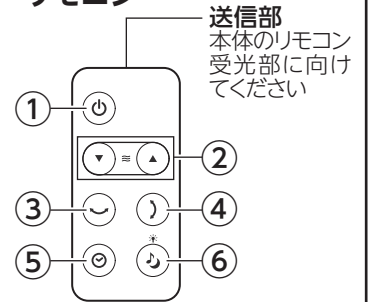
各部の名称とはたらき



本体操作部



リモコン



- ① 電源ボタン
運転の開始/停止をします。
- ② 風量ボタン
運転中、風量を変更します
- ③ 左右首ふりボタン
左右首ふりの開始/角度設定/停止をします。
- ④ 上下首ふりボタン
上下首ふりの開始/停止をします。
- ⑤ 切タイマーボタン
切タイマーの時間を設定をします。
- ⑥ リズム・おやすみ風ボタン
リズム/おやすみ風機能の切り替えをします。
※長押しで操作部のランプが減光モードに設定されます。

表示ランプ

- ① 風量ランプ (5段階: 静音、1~3、ターボ)
現在設定されている風量を表示します。
(静音、1~3: 青色/ターボ: 赤色)
- ② 左右首ふりランプ (30°、60°、90°)
左右首ふりをしているときに点灯します。
首ふりの角度に合わせたランプが点灯します。
- ③ 上下首ふりランプ
上下首ふりをしているときに点灯します。
- ④ 切タイマーランプ (1H・2H・4H・8H)
切タイマーがはたらくまでの時間を表示します。
- ⑤ リズム・おやすみ風ランプ
(リズム風: 青色/おやすみ風: オレンジ色)

使用前の準備

梱包部品一覧

お買い上げ後、同梱の部品を確認してください。

本体.....	1個	羽根取付用Spinner(モーター軸に取付済)...	1個
ACアダプター.....	1個	保護チューブ(モーター軸に取付済).....	1個
リモコン.....	1個	フェルト(アロマケースに1個取付済).....	3個
コイン形リチウム電池(CR2025).....	1個	取扱説明書(保証書含).....	1個
羽根.....	1個		

※お買い上げの際、製品の箱に入っていた包装部材は、シーズン終了後、製品を収納するときに必要ですので捨てないでください。

羽根の取り付け

1. 本体を平らな安定した場所に置く

2. 本体に取り付けられている部品を取りはずす

1 前ガードをはずす①

前ガードを左に回して止まったところから前に引いて取りはずします。

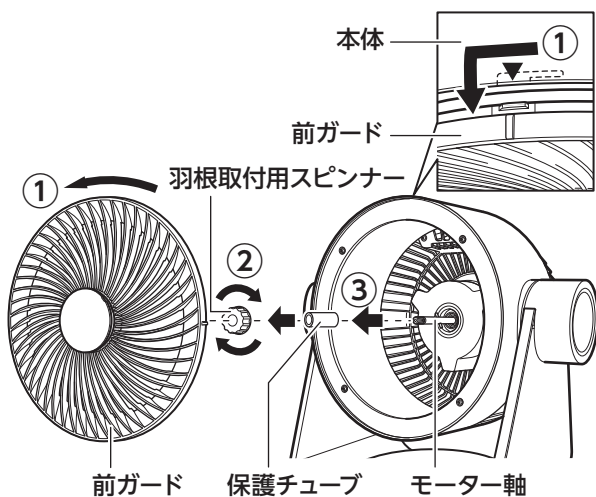
2 羽根取付用Spinnerをはずす②

モーター軸に取り付けられている、羽根取付用Spinnerを右に回して取りはずす。

• 羽根取付用Spinnerがかたくて回しづらいときは、保護チューブを反対の手で押さえながら羽根取付用Spinnerを回してください。

3 保護チューブをはずす③

※保護チューブはシーズンオフに収納するとき、モーター軸のサビ防止として使用しますので、大切に保存してください。



3. 羽根と前ガードを取り付ける

1 羽根をモーター軸にはめ込む④

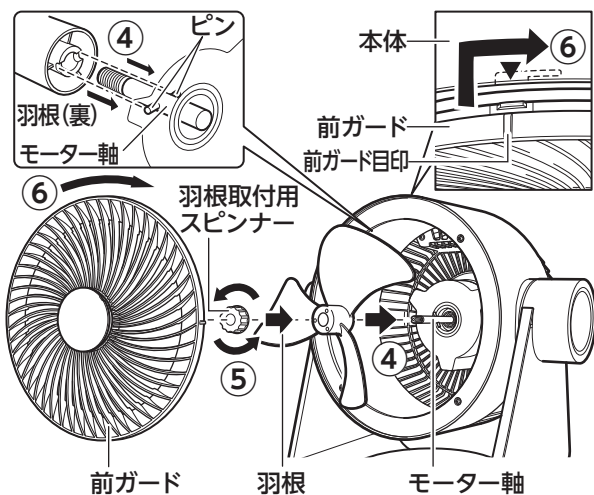
モーター軸にあるピンと羽根の裏の凹みを合わせるように羽根を取り付けてください。

2 羽根取付用Spinnerを取り付ける⑤

羽根を取り付けたあと、羽根を押さえ、羽根取付用Spinnerを左に回して取り付けてください。羽根取付用Spinnerを左に回して、しっかりと羽根を締め付けてください。
※羽根取付用Spinnerを回すときは、羽根を押さえないと、取り付けることができません。

3 前ガードを取り付ける⑥

前ガードにある目印を、本体の上にある▼に合わせて全体的に押し込み、右に回して取り付けてください。



使用前の準備 (つづき)

警告 前ガードを取り付けずに運転をしない。
事故・故障の原因になります。

注意 羽根のエッジなどでけがをしないよう、十分に注意する。

リモコンに電池を入れる

下記の手順で付属のコイン形リチウム電池を入れてください。

1. 電池ボックスをリモコン本体から引き出す①

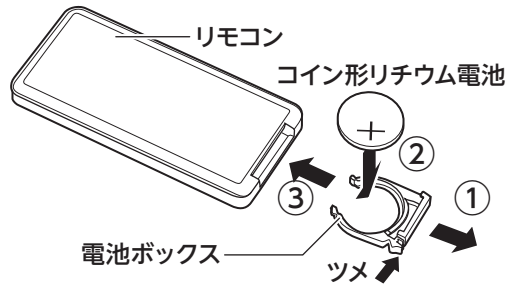
電池ボックスのツメを内側に倒すようにして引き出します。

2. 電池の⊕⊖の向きに注意して電池ボックスにコイン形リチウム電池を取り付ける②

電池の⊕側を上にして取り付けてください。

3. 電池ボックスをリモコン本体に差し込む③

カチッと音がするまで差し込んでください。



使用可能範囲

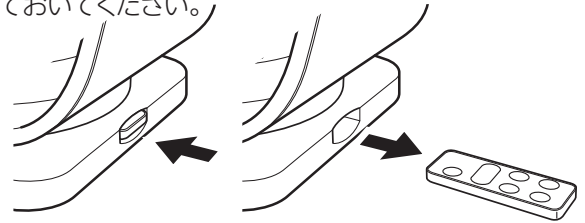
- ・ 本体リモコン受光部正面から直線で約5m以内
 - ・ 本体リモコン受光部正面から左右に約30度以内
- ※リモコンと本体リモコン受光部の間に障害物があるときは、リモコンが正常に動作しないことがあります。

注意

- ・ 電池の寿命を長くするため、長時間使わないときは電池を取りはずす。
- ・ 電池の⊕⊖は正しく入れる。
故障や液もれの原因になります。
- ・ 電池の充電・ショート・分解・火への投入・加熱などはしない。
- ・ 液もれが起こったときは、よくふき取ってから新しい電池を入れる。

リモコン収納部

本体右側のベース部にリモコン収納部があります。リモコンを使用しないときは、リモコン収納部に入れておいてください。



本体の設置

1. 本体を安定した水平な場所に設置する

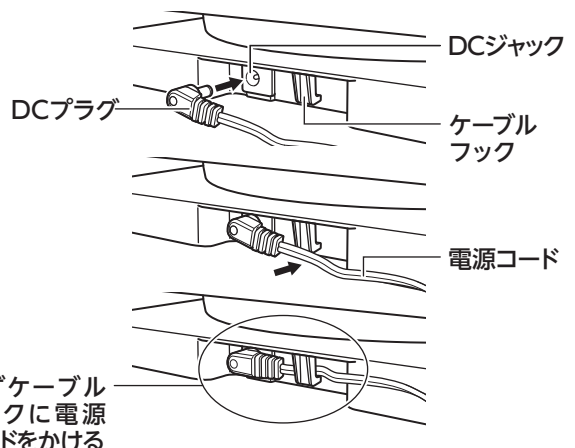
前ガードが正しく取り付けられていることを確認してください。

警告 前ガードを取り付けずに運転をさせない。
事故・故障の原因になります。

2. ACアダプターのDCプラグをDCジャックに取り付ける

DCプラグをDCジャックに取り付けたあと、必ず電源コードをケーブルフックにかけてください。

3. ACアダプターをコンセントに差し込む ピッと音が鳴ります。



正しい使いかた

本体操作部

- ① 電源ボタン
- ② 風量ボタン
- ③ 左右首ふりボタン
- ④ 上下首ふりボタン
- ⑤ 切タイマーボタン
- ⑥ リズム・おやすみ風ボタン

リモコン

送信部
本体のリモコン
受光部に向け
てください

- ① 電源ボタン
- ② 風量ボタン
- ③ 左右首ふりボタン
- ④ 上下首ふりボタン
- ⑤ 切タイマーボタン
- ⑥ リズム・おやすみ風ボタン

表示ランプ

- ① 風量ランプ (5段階: 静音、1~3、ターボ)
風量を表示します。
(静音、1~3: 青色/ターボ: 赤色)
- ② 左右首ふりランプ (30°、60°、90°)
左右首ふりをしているときに点灯します。
首ふりの角度に合わせたランプが点灯します。
- ③ 上下首ふりランプ
上下首ふりをしているときに点灯します。
- ④ 切タイマーランプ (1H・2H・4H・8H)
切タイマーがはたらくまでの時間を表示します。
- ⑤ リズム・おやすみ風ランプ
(リズム風: 青色/おやすみ風: オレンジ色)

運転を開始/停止する

1. 運転を開始する

本体またはリモコンの電源ボタンを押すと、運転を開始します。

- 通常の使用時にはメモリー機能により、前回停止時の風量・首ふりで運転を開始します。
- 電源プラグをコンセントに差し込んでから最初に本体またはリモコンの電源ボタンを押したときには、静音(最弱風)、首ふりなしで運転を開始します。

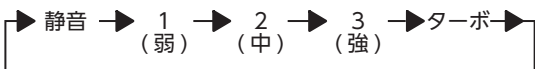
メモリー機能

本体またはリモコンの電源ボタンを押すと、前回の設定で運転を始めます(風量、左右首ふり角度、上下首ふり)。
※電源プラグをコンセントからはずすと、初期設定にリセットされます。
[初期設定] 風量: 静音(最弱風)、首ふり: なし。

2. 風量を調節する

本体またはリモコンの風量ボタンを押して風量を調節してください。

- 本体の風量ボタンを押すたびに、風量が順に強くなり、その風量ランプが点灯します。



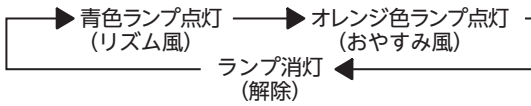
- リモコンの風量ボタンは▲ボタンを押すことで風量を強く、▼ボタンで風量を弱くすることができます。

※サーキュレーターとして風筒により風を中央に集中させ効果を高めています。
共鳴音があることがありますが、故障ではありません。

正しい使いかた (つづき)

3. リズム／おやすみ風機能を作動させる

運転中に本体またはリモコンの リズム・おやすみ風ボタンを押すと機能が切り替わります。



※ リズム風ランプ (青色)、おやすみ風ランプ (オレンジ色) が点灯します。

減光モード

表示ランプがまぶしいときに、本体またはリモコンの リズム・おやすみ風ボタンを長押し(3秒以上)すると、減光モードに設定することができます。

減光モードを解除する

リズム・おやすみ風ボタンをもう一度長押し(3秒以上)する。

4. 首ふり運転を開始／停止する

上下・左右同時に首ふり運転をすることが可能です。運転中に本体またはリモコンの 上下首ふりボタンと 左右首ふりボタンで切り替え、上下首ふりランプ、左右首ふりランプで確認することができます。

上下の首ふり

運転中に本体またはリモコンの 上下首ふりボタンを押すと、上下首ふり運転を開始します。

- 正面から真上まで約 90 度の範囲で首をふります。
- 本体の上下首ふりランプで首ふり運転の確認をすることができます。
- ファン部のみが動きます

もう一度 上下首ふりボタンを押すと、上下首ふり運転を停止します。

リズム／おやすみ風機能について

リズム風 (青色ランプが点灯)

風量に強弱をつけ、自然な風を再現します。

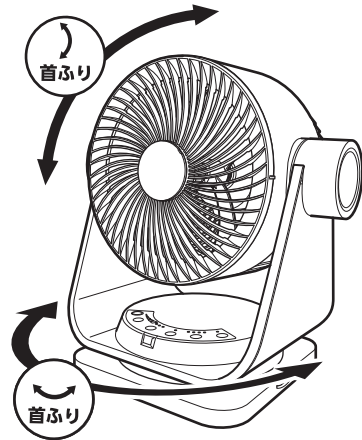
本体またはリモコンの 風量ボタンを切り替えることで風量パターンが強リズム風・中リズム風・弱リズム風と変化します。

おやすみ風 (オレンジ色ランプが点灯)

風量に強弱をつけ、自然な風を再現します。

本体またはリモコンの 風量ボタンを切り替えることで次のように風量パターンが時間とともに変化します。

ターボ風時	強リズム風 → 中リズム風 → 弱リズム風 と時間とともに変化します。
3(強風)時 2(中風)時 1(弱風)時	中リズム風 → 弱リズム風 と時間とともに変化します。
静音風時	弱リズム風 と同じです。



角度の調節

本機は手動で角度を調節することができません。電源を入れて、首ふり運転機能で上下左右の角度調節をして、適切な風向きにしてください。



注意

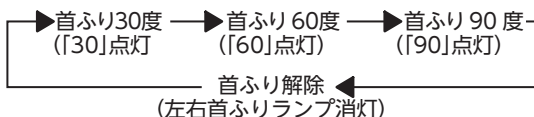
手動で角度調節をしない

無理に角度調節をすると、故障の原因になります。

左右の首ふり

運転中に本体またはリモコンの↔左右首ふりボタンを押すと、左右に首ふり運転を開始(首ふり角度30度・60度・90度)します。

- ベース部より上の部分が動きます
- 本体の左右首ふりランプで首ふり運転の確認をすることができます。
- ↔左右首ふりボタンを押すたびに、首ふりの角度が変わり、左右首ふりランプが切り替わります。



左右首ふりの1回目は、本機内で現在の角度など確認するため、正しく首ふりを開始するまでに時間がかかります。かかる時間は、その首ふり開始角度によって変わります。

- 左右首ふり運転を停止するときは、↔左右首ふりボタンを何度か押して、左右首ふりランプが消灯したことを確認してください。

5. 切タイマーを設定する

運転中に本体またはリモコンの⊙切タイマーボタンを押すと、切タイマーランプが点灯し、切タイマーが設定されます。切タイマーは最長8時間まで設定できます。

- ※切タイマーをキャンセルするには、本体またはリモコンの⊙切タイマーボタンを、切タイマーランプが消灯するまで、何度か押します。

6. 運転を停止する

運転中に本体またはリモコンの⏻電源ボタンを押すと、運転が停止します。

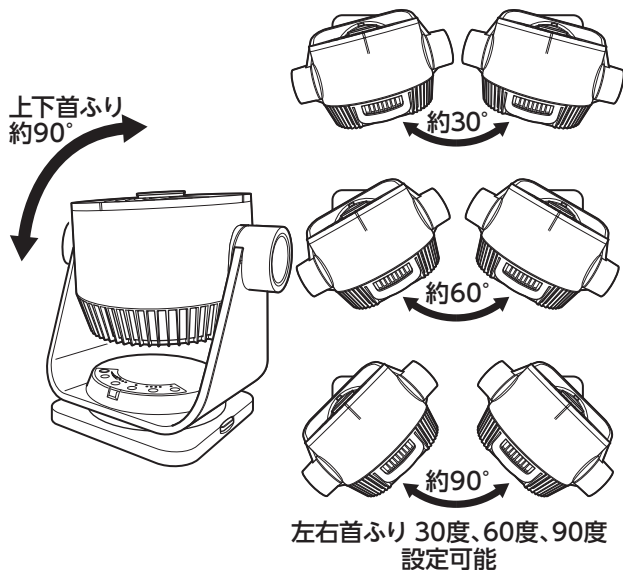
切り忘れ防止機能

最後に操作してから約12時間経過すると、運転が自動的に停止します。

7. ACアダプターをコンセントから抜く



警告 使用後はACアダプターをコンセントから抜く。火災・故障の原因になります。



切タイマーランプについて

切タイマーランプは、本体またはリモコンの⊙切タイマーボタンを押すごとに下のように切り替わります。



- ※切タイマーをキャンセルするには、本体またはリモコンの⊙切タイマーボタンを切タイマーランプが消灯するまで、何度か押します。

切タイマーを設定したのち、時間の経過とともに切タイマーランプが移り変わり、切タイマーが働くまでの時間を表示します。

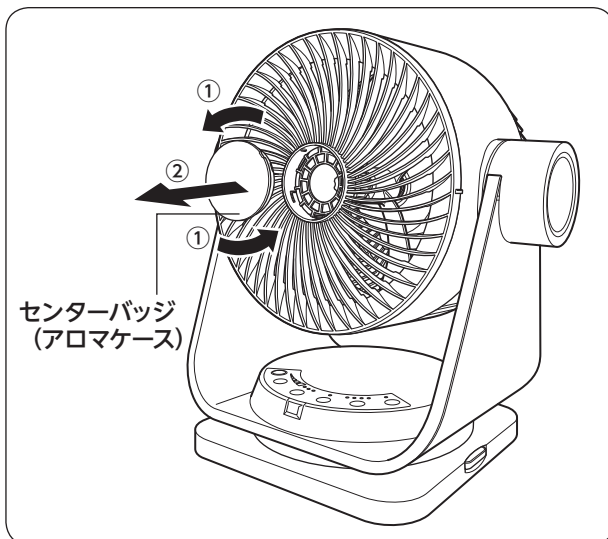


正しい使いかた (つづき)

アロマオイルの使いかた

1. 前ガードにセットされているセンターバッジ(アロマケース)をはずす

①②: センターバッジ(アロマケース)を左に回して、手前に引いてはずします。



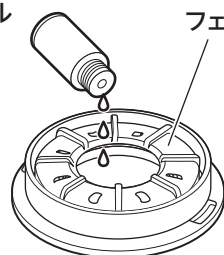
2. センターバッジ(アロマケース)にセットされているフェルトにアロマオイルを染み込ませる

センターバッジ(アロマケース)にフェルトがセットされていることを確認してください。市販のアロマオイルまたはエッセンシャル(天然)オイルを、外側にこぼれないよう注意しながら、2~3滴フェルトに染み込ませます。

アロマオイル、またはエッセンシャル(天然)オイル

フェルトカバー

※こぼれないよう注意しながらフェルトに染み込ませてください



⚠️ 注意

- アロマオイルまたはエッセンシャル(天然)オイルをセンターバッジ(アロマケース)のフェルト収納部からあふれるまで入れすぎない。
- アロマオイルまたはエッセンシャル(天然)オイルがセンターバッジ(アロマケース)やフェルトカバーの外側に付着した場合は必ず拭き取る。
- センターバッジ(アロマケース)やフェルトカバーの外側にアロマオイルまたはエッセンシャル(天然)オイルが付着した状態でセットしない。
- 本製品専用のフェルト以外は使用しない。本体の破損・故障の原因になります。

3. 元の位置にセンターバッジ(アロマケース)を取り付ける

手順1と逆の順番で取り付けます。右に回してセットします。

4. 運転を開始する

6ページの「運転を開始/停止する」の手順に従い運転を開始してください。アロマの香りを含んだ風をお楽しみいただけます。

フェルトの交換

※フェルトが汚れてきた場合や違う種類のアロマオイルまたはエッセンシャル(天然)オイルを使用する場合は、フェルトを交換してください。

※フェルトの交換の際は、右図のようにフェルトカバーを左に回してはずします。その後、フェルトを取りはずし、フェルトを交換します。

※フェルトは必ず図のように、ツメの下になるようにセットしてください。パッキンがセットされていることを確認し(必ずセットしてください)、フェルトカバーを右に回してセットしてください。

※フェルトはご購入時にセンターバッジ(アロマケース)にセットされているもの以外に3枚付属しています。フェルトは洗って再使用することができません。

※フェルトはセンターバッジ(アロマケース)のフェルト収納部のツメの下になるようにセットしてください。センターバッジ(アロマケース)は中性洗剤などで洗い、水気をよく拭き取ってから、手順1~3に従ってセットしてください。

交換用フェルト

交換用のフェルトは別売しています。本体お買い上げの販売店またはドウシシャお客様相談室(裏表紙参照)にお問い合わせください。

※フェルトは消耗品ですので、保証期間中でも有償となります。

交換用フェルト

商品名 フェルト (4枚)

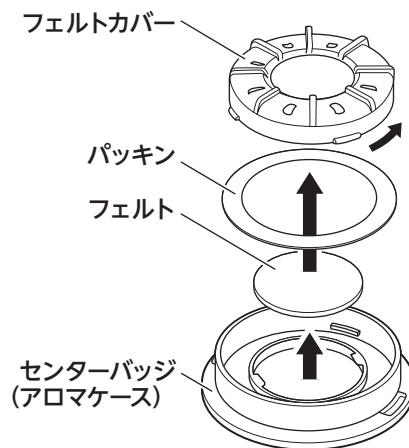
型番 AF-ZE1

¥500(税抜)

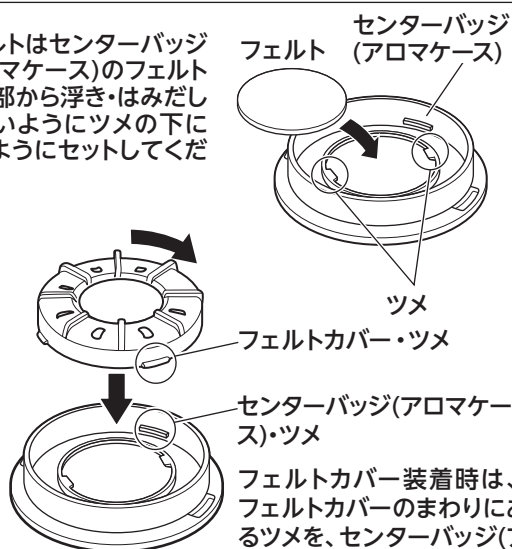
アロマオイル・エッセンシャル(天然)オイルなどについて

- ・炎に近づけないでください。
- ・子供の手の届かない場所に保存してください。
- ・衣服などに付着した場合は、大量の水で洗い流した後、自然乾燥させてください。乾燥機は使用しないでください。発火する恐れがあります。
- ・手に付着したときは、直ちに手を洗ってください。
- ・取り扱いについては、アロマオイル・エッセンシャル(天然)オイルに付属の取扱説明書をご覧ください。

センターバッジ(アロマケース)に取り付けられているフェルトカバーを左に回すと、フェルトカバーがはずれます。



フェルトはセンターバッジ(アロマケース)のフェルト収納部から浮き・はみだしがないようにツメの下になるようにセットしてください。



フェルトカバー装着時は、フェルトカバーのまわりにあるツメを、センターバッジ(アロマケース)の内側にあるツメよりも下に押し込み、右に回してセンターバッジ(アロマケース)にはめ込んでください。

お手入れと保存



お手入れの際は、必ずACアダプターをコンセントから抜く。
感電・火災・けがの原因になります。

お願い

- ・住宅用洗剤やシンナー、ベンジン、アルコール、磨き粉などは絶対に使わないでください。
- ・本体・ACアダプターに水をかけて洗わないでください。(感電・故障の原因になります。)

通常のお手入れ

前ガードと後ガードについたホコリは、すきま用ノズルなどを取り付けた掃除機などで取り除いてください。

お手入れ

本体の汚れは、ぬるま湯か食器用中性洗剤に浸して、かたくしぼった柔らかい布でふきとり、さらに乾いた布でやさしくからぶきをしてください(樹脂部分は強くこすらないでください。傷つきの原因となることがあります)。

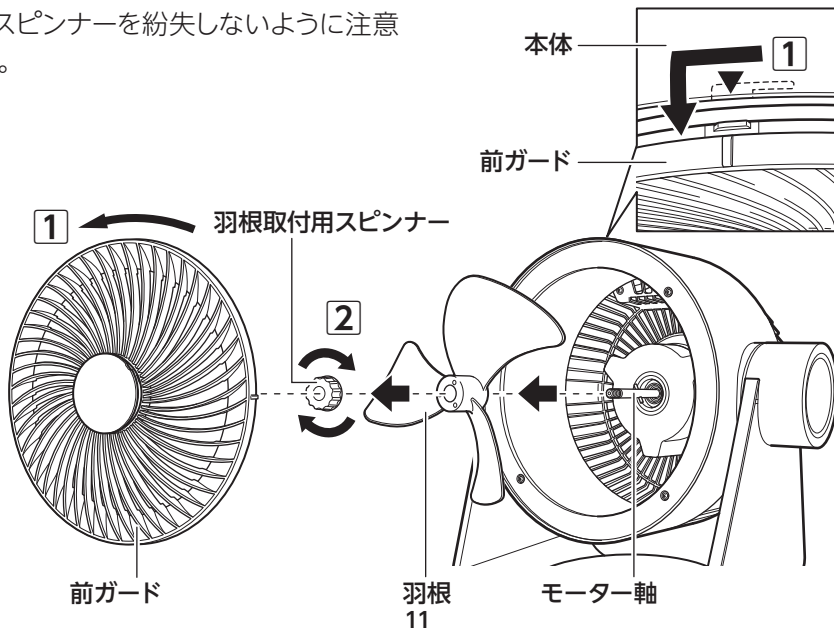
前ガード・羽根の取りはずしかた

前ガード・後ガードの内側・羽根の汚れは、前ガードと羽根を取りはずして行ないます。

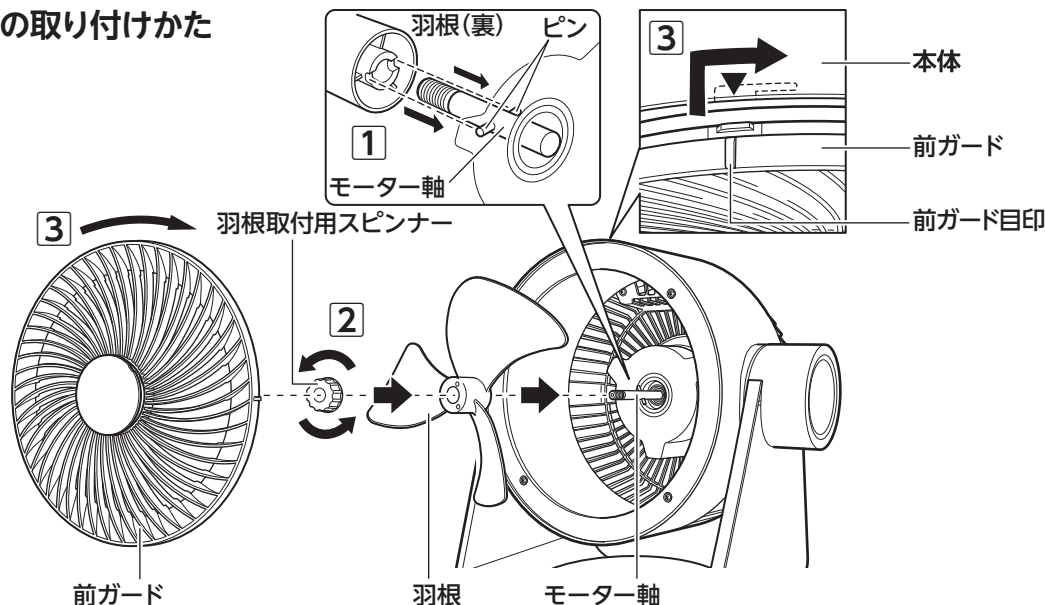
- ① 前ガードの上の部分を確認し、前ガードを左に回して止まったところから前に引いて取りはずします①。
- ② 前ガードを取りはずしたあと、羽根を押さえ、羽根取付用スピナーを右回しにして取りはずし、羽根を取りはずします②。

※羽根取付用スピナーを回すときは、羽根を押さえないと、取りはずすことができません。

※羽根取付用スピナーを紛失しないように注意してください。



前ガード・羽根の取り付けかた



- ① モーター軸にあるピンと羽根の裏の凹みを合わせるように羽根を取り付けます①。
- ② 羽根を取り付けたあと、羽根を押さえ、羽根取付用Spinnerを左に回して取り付けます②。
 ※羽根取付用Spinnerを回すときは、羽根を押さえないと、取り付けることができません。
 ※羽根取付用Spinnerを取り付けるとき、強くしめすぎると、破損させる恐れがありますのでご注意ください。
- ③ 前ガード目印を、本体の上にある▼に合わせて全体的に押し込み、右に回して取り付けます③。

保存のしかた

- お手入れのあと、よく乾燥させてください。
- ポリ袋などをかぶせ、お買い上げの商品が入っていた箱に入れて、湿気のない場所に保存してください。
- 箱に入れるとき、前もって首ふり機能で前を向くように調節しておく必要があります。
- 長期間使用しないときは、リモコンから電池を取りはずしておいてください。

警告	前ガードを取り付けずに運転をしない。 事故・故障の原因になります。
-----------	--------------------------------------

注意	羽根のエッジなどでけがをしないよう、十分に注意する。
-----------	----------------------------

修理・サービスを依頼する前に

⚠警告 修理技術者以外の方は分解したり修理をしない。

「故障かな?」と思ったときには次の点をお調べください。

症状	主な原因	処置
羽根がまわらない	• ACアダプターが抜けている	ACアダプターをコンセントに差し込む
	• DCプラグが抜けている	DCプラグをDCジャックに差し込む
突然運転が止まる	• 切り忘れ防止機能 (8ページ) が働いている	本体またはリモコンの電源ボタンを押して電源を入れる
運転時に大きな音がる	• 前ガード、羽根などが正しく取り付けられていない	正しく取り付ける(「前ガード・羽根の取り付けかた」(12ページ))
手動で角度を調節できない	• 本機は、手動で角度調節をすることができません	首ふり機能を使って角度調節をする
左右首ふりボタンを押すと、すぐに動き出さない・最初に指定角度よりも大きく首ふりをする	• 故障ではありません (内部の回路が現在の位置関係を確認するために、最初の1回の首ふりはすぐに動かなかったり、大きく首ふりをしたりします)	正常な首ふりが開始されるまでお待ちください
リモコンで操作できない	• リモコンの電池が切れている	新しい電池に交換する
	• 本体のリモコン受光部に信号が届いていない (リモコン受光部が本体の下側にあるため、本体に向けて操作していても信号が届いていないことがあります)	リモコンの送信部を本体のリモコン受光部に向ける
	• コイン形リチウム電池が逆に入っている	コイン形リチウム電池を正しく入れる (「リモコンに電池を入れる」(5ページ))

長年ご使用のサーキュレーターはよく点検を

このような症状はありませんか?

- 電源コードやACアダプターが異常に熱い。
- 電源コードを動かすと、通電したり、しなかったりする。
- こげ臭い匂いがする。
- その他の異常・故障がある。




このような症状のときは、事故防止のため、すぐに電源を切り、コンセントからACアダプターを抜いて、必ず販売店またはドゥシヤお客様相談室に点検をご相談ください。

長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示について

(本体への表示内容)

※経年劣化により発火・けが等の事故の発生が高まるおそれがあることを注意喚起するために電気用品安全法で義務付けられた以下の内容の表示を本体に行っています。

	[製造年] (本体に西暦4桁で表示してあります) [設計上の標準使用期間] (本体に表示してあります)
	設計上の標準使用期間を超えて使用されますと経年劣化による発火・けが等の事故に至るおそれがあります。

(設計上の標準使用期間とは)

※下表の標準的な使用条件の下で使用した場合に、製造した年から安全上支障なく使用することができる標準的な期間です。

※設計上の標準使用期間は、無償保証期間とは異なります。また、偶発的な故障を保証するものではありません。

■ 標準使用条件 (JIS C9921-1による)

環境条件	電圧	AC 100V	製品の取扱説明書による
	周波数	50Hz/60Hz	
	温度	30℃	
	湿度	65%	
	設置	標準設置	
負荷条件		定格負荷(風速)	
規定時間 など	運転時間	8h/日	
	運転回数	5回/日	
	運転日数	110日/年	
	スイッチ操作回数	550回/年	
	首振運転の割合	100%	

●「経年劣化とは」

長期間にわたる使用や放置に伴い生ずる劣化をいいます。